

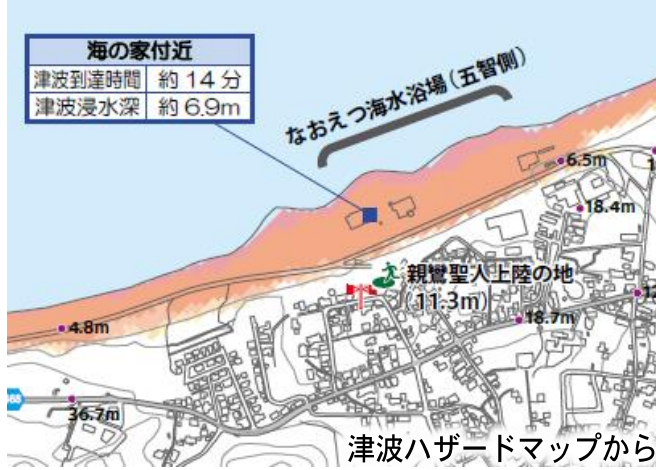
津波の避難方法や避難経路 現実的なものを一刻も早く

能登半島地震では、上越市にも大きな津波が押し寄せ、船見公園で遡上高5.8mを記録しました。(遡上高とは、津波が内陸へ駆け上がった高さで、気象庁が発表する「津波の高さ」は、これとは別に、沿岸における平常潮位(津波がない状態の海面)からの高さを指します。)

今回の地震では、地震発生直後に直江津港の潮位がおよそ1.3メートル上昇したとのことですが、この津波が海拔5.8mの地点まで押し寄せたということで、今回のように震源が遠い地震でもかなりの高さまで水が駆け上がったことがわかります。

上越沖には多くの断層があることがわかっており、津波ハザードマップでは、F41(上越・糸魚川沖)断層による津波が最も大きな影響をおよぼすとされています。この断層による津波は、名立区方面には5~10分程度で到達し、断層からやや遠い柿崎区方面でも10~15分程度で到達するとされています。

命を守るには、これだけ早く到達する津波から確実に避難することが必要です。ハザードマップでは、「自動車での避難は道路の渋滞に巻き込まれるおそれ



があるため、可能な限り徒歩で避難しましょう」とされていますが、今回の地震では、自家用車で避難した市民が多数に上りました。実際問題としても、高齢者などは徒歩で高台に避難するのは無理との指摘もあります。

こうしたことを受けて、16日に行われた学識経験者などから意見を聞く連絡調整会議の席上、中川市長は「避難行動要支援者など単独避難が難しい方については、車を活用することも検討していきたい」と述べたと報道されています。

大きな地震は、明日にも発生するかも知れません。そのことを想定し、市民が確実に避難できる現実的な方法や経路を一刻も早く示すべきです。

地震被災者支援にも注力

上越市 新年度予算案(3月議会議案)を発表

上越市は19日、2024(令和6)年度的一般会計予算案などを発表しました。

それによると、予算規模は1023億円あまりと、今年度当初予算に比べて約75億円増加し、制度融資の預託金などを除いた実質予算額は59億円あまり増えています。

予算案では、能登半島地震の被災者支援や今後の災害対策に力を入れた施策が盛り込まれています。これらの中には、日本共産党議員団がこれまで申し入れてきたものです。

主な災害対策は次の通りです。

◆災害救助法に基づく住宅応急修理制度の対象とならない被災住宅の修理を支援

◆居住する住宅が半壊以上の被害を受けた方を対象に支援金を支給

◆被害を受けた市内の指定文化財や国登録有形文化財の復旧を支援

◆町内会や自主防災組織に対して災害時の避難や訓練に必要な防災資機材の購入を支援

◆災害時に支援が必要な高齢者等が確実に避難できるよう、町内会による個別避難計画の作成等を支援

◆地震による住宅倒壊から市民の命を守るため、木造住宅の耐震診断と耐震化を支援

◆その他の主な新規事業や拡充する事業は次の通りです。

◆特別支援学校の児童生徒の通学を支援

◆空き家対策を行うNPO法人と連携して、

所有者等との面談や様々な課題を解決するための提案等を行う取組を実施

◆高齢者世帯を対象として電話の通話録音装置を無償で貸与

◆乗務員不足が課題となっているタクシーの人材確保を支援

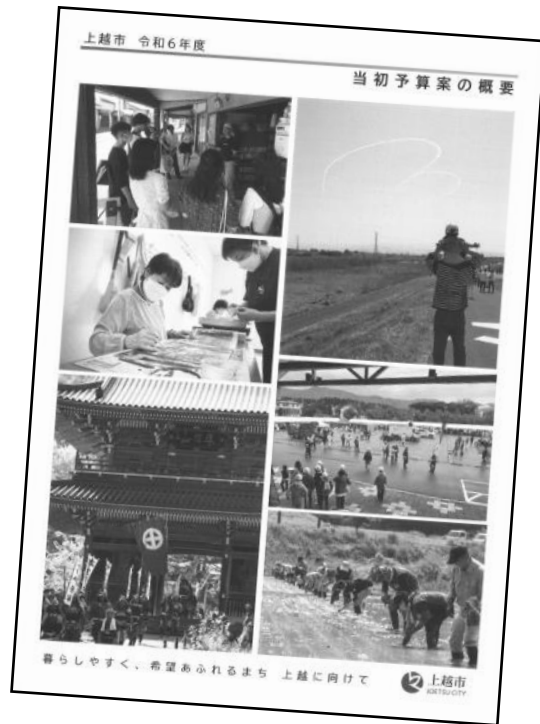
◆ICTやドローン技術を活用した「スマート捕獲」などで鳥獣害対策を強化

◆養育費の取り決めに要する費用を助成し、離婚後のひとり親世帯の生活の安定を支援

◆放課後児童クラブの日曜日・祝日の開設を試行

◆私立高等学校の生徒に対して、所得に応じて学費助成額を引き上げ

◆これらの新年度予算案は、2月28日に始まる3月定例議会に提案され、審議されます。



日本共産党上越市議員団ニュース
No.825 2024年2月25日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))
ホームページ <https://jcpjoetsugiindan.webnode.jp/>

少しだけ減少 しかし要注意

上越保健所管内
新型コロナウイルス感染症
感染者定点報告数

1月22日~1月28日 16.50 (県14.84)
1月29日~2月4日 26.88 (県18.92)
2月5日~2月11日 19.00 (県18.48)